

# JR折尾駅 建て替え

## 「文化財価値 調べて」

### 2市民団体が陳情

北九州市議会  
建築消防委 継続審査に

線路の高架化などの整備事業で年内に解体が始まる予定のJR折尾駅(八幡西区)について、二つの市民団体が23日、北九州市議会の建築消防委員会で「駅舎の文化財価値の調査を実施してほしい」などとする陳情3件を提出。賛同する委員もおり、陳情は継続審査となった。

折尾駅は1916(大正5)年、日本初の立体交差駅として建設された。しかし駅周辺の交通渋滞緩和などのため、折尾地区総合整備事業の一環として解体が決まっている。市はこれまで、待合円形ベンチや格子天井など、駅のシンボリックな部材を再利用するほか、外観をできるだけ同じようなデザインにする方針を示している。

の折尾文化会議(江島勉代表、約30人)と「学園&地域交流ネットワーク」(竹下秀俊代表、約50人)は「駅舎の文化財価値を調べ、価値があるときれた場合は文化財に指定してほしい」などとする陳情を提出。市側は「シンボリックな部材を活用し、生きた施設としてできるだけ保全していく」などと答え、調査しない考えを示した。

鉄道高架化や駅舎建て替えの総事業費は約350億円で、新駅舎は16年度の完成を予定している。

【大戸護】